第3回三重県海岸保全基本計画検討委員会 議事要旨

日時:令和7年3月11日 15時30分～

場所:三重県合同ビル

4F G402 会議室

委員会の主な意見は以下のとおりでした。

1. 前回委員会での意見と対応について

- 基本計画本文の修正について、隣接の愛知県とどのような調整をしているか。
(事務局回答)愛知県も検討委員会が完了し、今後は共通項目について両委員会の内容を突き合わせ調整し、共通でない項目は基本計画本文の第2章に記載する予定である。

2. 三重県海岸保全基本計画検討委員会技術部会の検討結果について

- 気候変動後の外力で検討対象施設の性能照査がNGであるがどういう意味合いなのか。
(事務局回答)現状の天端高が、気候変動後の高潮・高波、津波から防護するために必要な高さを確保できないという意味である。
(副委員長回答)この成果を活かし、リスク地域においては、まちづくり関係者などと協力して対策を進めるよう求められているということも期待される。

4. 三河湾・伊勢湾沿岸 海岸保全基本計画の本文変更(案)

5. 熊野灘沿岸 海岸保全基本計画の本文変更(案)

- 気候計画本文の気候変動に関連する更新部分においては、海面上昇についての言及が多く見られるが、降雨の変化やそれに伴う影響についての視点が不足しているのではないか。
(事務局回答)海岸保全基本計画では海岸を主体として検討を進めている。洪水(河川)については、別途河川部局で検討を進め、河川整備計画の見直しを行っている
(委員長回答)河川と海の干渉について過去に検討したことがある。波は多少高くなるが、それほど大きな影響はない。河口砂州については、流量が大きくなると海側に移動するため河川への影響は小さくなる。潮位については、海域の水量が圧倒的に多いので影響は小さいため、海岸への影響はあまりないと思われる。
(副委員長回答)雨が降り河川からどの程度水が流出するかという問題については、河川管理者がどの程度の水量を流下させるかによって決まるため、海岸管理の観点からこれを検討することは難しい。

以上